

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価 (3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 少人数クラスで多様な生徒が学ぶ夜間定時制の特性を生かし個々に目を向けた授業を実践するために、主体的・対話的な学びのある授業を展開して、生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を行う。</p> <p>② ICTの活用等を通して個別最適化の学びを推進し、生徒の学習意欲を高め基礎学力の醸成を図る。</p>	<p>①それぞれの生徒が基礎学力の向上を実感できるよう、個々の生徒の特性や習熟度に応じた対話的な授業を展開する中で主体的な授業を目指す。</p> <p>②ICTの活用等により、生徒が意欲をもって学習に向かうことができる環境を整えていく中で、①に通じるような授業改善を図る。</p>	<p>①チームティーチングの配置や個別指導の実施などにより、生徒の特性や習熟度に応じた学習支援を行い、生徒が意欲を持って学習に取り組める環境を作る。</p> <p>②ICTによる教科指導例を蓄積・整理・共有し、多くの授業で効果的に活用していく。</p>	<p>①チームティーチングや個別指導などの実施により、生徒の理解が進み、授業に主体的に取り組む姿勢が向上したか。</p> <p>②ICTの効果的な活用方法が共有され、生徒の理解が進み、授業に意欲的・主体的に取り組む姿勢が向上したか。</p>	<p>①チームティーチングや個別指導によって、生徒個々の困り感に対応し、生徒に合わせた進度で授業を行うことで、個々の生徒の理解の向上や授業に主体的に取り組む姿勢の向上につながった。</p> <p>②授業公開推奨月間を通してICTの効果的な活用方法を共有することができ、生徒が授業に意欲的に取り組む姿勢が向上した。</p>	<p>①チームティーチングや個別指導等を継続し、生徒が主体的に学習に取り組める環境の整備、効果的な手立ての実践・研究のため、授業互観等を通して研鑽を重ねる。</p> <p>②電子黒板が導入されたので、電子黒板を含めたICTの効果的な活用方法を職員間で研究・共有し生徒の授業の意欲的・主体的に取り組む姿勢を育てていく。</p>	<p>①チームティーチングや個別指導等できめ細かい指導を引き続きお願いしたい。</p> <p>②生徒がコピーマシンにならないよう「書く思考」「書くことの大切さ」をもって、デジタルの良さと板書のよさの両立を図ってほしい。</p>	<p>①個々の生徒の理解や授業に主体的に取り組む姿勢が向上したが、さらなる向上を目指していく。</p> <p>②ICT機器が導入され、授業での活用方法が共有できた。新たに導入された電子黒板の活用についても効果的な活用方法のノウハウの共有が必要である。</p>	<p>①環境の整備、効果的な手立ての実践・研究のため、授業互観等を通して研鑽を重ねる。</p> <p>②ICT機器の効果的な活用方法を職員間で研究・共有し生徒の授業の意欲的・主体的に取り組む姿勢を育てていく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>① 共生教育の実現、より高い人権意識の醸成をし、外部機関との連携を図りながら組織的な支援体制を構築して、心身ともに健全な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>② 生徒が社会的職業的に自立し、社会で必要とされる人材となることができるよう、家庭との連携を図り自立を支援する。</p>	<p>①自己理解や他者理解を深めることにより、人権意識を醸成していき、共通の目標を持って、有意義な学校生活を送れるよう支援する。</p> <p>②保護者と協働して生徒の指導に当たれるよう意思疎通を図り、高校卒業までに自律と自立をする力を身に付けさせていくよう、継続した指導を行う。</p>	<p>①新入生歓迎会や文化祭、体育祭など様々な行事を楽しく誰もが参加できるような方法を考えさせる。</p> <p>①サポートドック事業やこころサポート事業を活用し、各自の困り感等を発信する力を養う。</p> <p>②三者面談や家庭連絡等を通して保護者との連携を図り、自立に向け基本的な生活習慣を身につけられるよう協力して取り組む。</p>	<p>①生徒の学校行事への参加率が向上したか。</p> <p>①相談支援や生活支援を必要とする生徒に対し、的確な支援を行うことができたか。</p> <p>②生活習慣を整える意識が高まり、年間で遅刻欠席の回数が令和6年度を下回ったか。</p>	<p>①生徒会本部役員を中心に生徒が企画段階からより多くの生徒が参加できる種目や内容を考えた結果、新入生歓迎会では20%、文化祭で11%、体育祭で17%に参加率が向上した。</p> <p>①外部機関と連携し、療育手帳の取得や生活支援の活用につなげることができた。</p> <p>②不登校等のため様々な体験が不足している生徒が多いので、生徒会行事や進路活動、LHR活動で学年を横断したグループでの活動を増やした。その結果積極性や社会性の向上が観られた。</p> <p>②生徒一人当たり、欠席は9.3日減少、遅刻は0.52回増加、早退は0.24回減少した。(各年度11月13日現在)</p>	<p>①今後生徒数の減少が予想され、生徒一人ひとりの役割が増加する中で、効率的な行事の運営方法を検討する。</p> <p>①卒業後の自立を視野に入れて、今後も外部機関と連携し生徒を支援していく。</p> <p>②コミュニケーション力不足のために友達と友好な関係を築けない生徒対しての支援方法を模索していく必要がある。</p> <p>②遅刻が微増しているが、引き続き生徒の状況把握に努め家庭との連絡をとりながら、基本的生活習慣が身につくよう支援を行っていく。</p>	<p>①募集停止後、人数が少ないからこそこそできることを全日制とともにコラボできるとよい。</p> <p>②学年の壁を越えての活動は定時制ならではの強みであると考えている。コミュニケーション力の醸成に繋がるので、今後も続けてほしい。</p> <p>②定時制の学び方に適応し、安心して学校生活を過ごしている生徒が多くいる。今後も温かく支援してもらいたい。</p>	<p>①生徒数が減少しているが、少人数の良さを生かすことができた。今後さらなる生徒数の減少により行事の開催に支障が出ると思われる。対策が必要である。</p> <p>②担任や教育相談担当、SC、SSWが生徒の困り感を察知し外部機関に繋げることができた。さらに、生徒の発信力と自立する力の向上を図る。</p> <p>②保護者との協働を促進するため、引き続き意思疎通を図っていく。</p>	<p>①生徒の人数が減少していく中で、少人数の良さを生かしつつ、全日制とのコラボレーションを含めて行事の企画・運営を検討していく。</p> <p>②適宜適切に家庭連絡と情報共有を行うことを継続する。</p> <p>②支援が必要な卒業予定生徒については、保護者と連携し、就労支援機関に繋ぎ、自立を支援していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>① 将来のイメージを明確化し主体的に準備して自己理解を深めて希望進路の実現ができるよう支援する。</p> <p>② 個々の生徒の進路実現に向け、一人ひとりのニーズに合わせた進路情報を提供し支援して、希望進路の実現に向けた主体的な姿勢を育むために、様々な経験をする機会を充実させる。</p>	<p>① 個々の生徒が自分自身の適性を理解し、希望する進路を明確にできよう支援する。</p> <p>② 生徒一人ひとりのニーズや適性に合わせた進路情報を提供する。</p>	<p>① ガイダンスや実習の機会をさらに多く設定し、多様な業種、職種について経験させていく。</p> <p>② 担任面談や進路担当の面談、面接指導を通して、個々の生徒の希望する職種・業種につながる進路情報を提供する。</p>	<p>① 多くの職業・業種を経験した中で、個々の生徒が自らの適性にあった職業・業種を見つけ出すことができたか。</p> <p>② 個々の生徒が提供された進路情報を基に、自らの進路を絞り込むことができたか。</p>	<p>① 卒業学年生徒にはハローワークによる就職ガイダンス、全校生徒を対象としたキャリアサポート業者によるキャリアガイダンスを実施した。また全校生徒を対象として分野別説明会や企業見学を実施し、1学年から自分の進路希望について考える機会を設けた。</p> <p>② 担任面談や進路担当の面談、面接指導での対話を通して、生徒が自分の適性と進路先を結び付けて考えられるようになった。結果、消極的だった生徒も進路活動に取り組めるようになった。</p>	<p>① 引き続きガイダンスや就業実習等の行事を充実させることによりキャリア形成への意識を高めて、早期の目標設定ができるよう指導していく。</p> <p>② 各自の目標設定が実際の就職や進学先に結び付けられるよう、早い段階から自らの適性に気づきそれに合った進路について考えるような機会を設けられるようにする。</p>	<p>① 大学でも定着率の低下が課題になっている。自分を知るということは大切である。 ① 早めに進路に向けた活動を行う必要がある。</p> <p>② 卒業を待たずに早期からの就職をさせてもよいのではないか(在学中であると中卒の学歴となるため職種・業種が狭まるので現実的ではない。)</p>	<p>① 分野別説明会や企業見学を実施することを通して、進路希望について考える機会となった。今後それを契機としてより深く職業と自分との適合について考えさせていきたい。</p> <p>② 自らの進路適正に応じた、進路選択ができるような機会を持つことができた。選択した進路に応じた進路活動が行えるような体制を堅固なものにする。</p>	<p>① 引き続き、ガイダンスや就業実習等の行事を充実させることによりキャリア形成への意識を高める。</p> <p>② より密な相談体制を構築し、きめ細やかな支援体制を築いていく。</p>
4	地域等との協働	<p>① 生徒の社会的自立を促し社会性の向上を図るため、地域の教育力を活かすなど協働の機会を増やし、地域に開かれた魅力ある学校をめざす。</p> <p>② 広報活動を継続的に実施し、積極的に外部へ定時制の魅力を発信する。</p>	<p>① 地域貢献活動やボランティア活動を通して、地域社会の一員としての自覚を持たせるとともに、社会貢献の意識を醸成する。</p> <p>② 学校HP等を継続的に活用して学校の魅力や情報を発信し、開かれた学校づくりをめざす。</p>	<p>① 地域清掃を行うことで、地域の環境美化への取り組みを学ぶ。 ① 文化祭や部活動、ボランティア活動を通して、PTAや地域との交流や協働の機会を増やし、地域社会の一員としての意識を持たせる。 ② 学校HP等で有用な情報を掲載し、保護者や地域に情報提供していく。</p>	<p>① 活動毎の事後アンケートで、地域貢献に対する意識や地域社会の一員としての自覚に関する項目の回答がよりよくなったか。</p> <p>② 活動や行事毎に学校HPを更新できたか。</p>	<p>① 地域貢献活動を実施し、地域社会の一員であるという自覚を深めることや地域の環境について考える機会とした。また部活動で地域の放課後デイサービスでのボランティアを複数回実施し、地域貢献の意義を学んだ。</p> <p>② 行事毎にHPの更新を行い、生徒の様子や学校の学びについて定期的に発信することができた。</p>	<p>① 引き続き、学校行事や部活動を活用し、生徒が地域社会の一員であるという自覚を深められるよう努める。</p> <p>② 今後も継続してHPの更新を定期的に行い、日ごろの教育活動を広報したい。</p>	<p>① 地域との接触する機会は大切にすべきである。引き続き活動してもらいたい。 ① 自ら楽しみながら学びのためのボランティアは、価値がある。</p> <p>② 多くの生徒が街へ出て活動するのはよいと思った。</p>	<p>① 地域貢献活動やボランティア活動を通じて、社会の一員であるという自覚を深めることができた。</p> <p>② 本校の取り組みだけでなく、定時制での学びについて発信することができた。</p>	<p>① 特技や趣味を生かしたボランティアや地域貢献活動を増やし、生徒が自己肯定感を高められるようにしていく。</p> <p>② 引き続きHP等を通して学校情報の発信を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>① 組織的に教職員の教育公務員としての意識向上を図り、職場内でのチェック体制を強化する。</p> <p>② 多様な主体との連携・協働を図り生徒が防災教育に主体的に取り組むとともに、教職員の防災に対する知識を高め、意識の醸成を図る。</p>	<p>① 組織的に不祥事防止に取り組み、継続して意識の向上を図る。</p> <p>② 近隣自治体や消防署と連携・協働した防災教育の仕組みづくりを引き続き検討するとともに、生徒・教職員の防災知識や意識の向上を図る。</p>	<p>① 不祥事防止研修を定期的実施し、全員が絶えず意識ができるように研鑽を重ねていく。</p> <p>② 消防署や神奈川県総合防災センター等を活用した防災避難訓練やDIG訓練を行い、各自が身の安全を確保できる知識や力を身につける。</p>	<p>① 教職員各自が不祥事防止研修会に当事者意識を持って参加し、相互チェック体制が確立できたか。</p> <p>② 近隣自治体や消防署との防災活動において、敏速な連携や適切な防災活動が実施できたか。また、訓練を通して適切な行動や教職員・生徒の役割を確認できたか。</p>	<p>① 毎月の職員会議で研修を行った。各月のテーマをもとに、全体で課題点について確認するとともに、チェックシートに個々で答えることで、当事者意識を持てる研修となった。</p> <p>② 神奈川県総合防災センターでの体験学習を通じて、災害時の自助共助の意義と方法を学ぶとともに、地域の防災活動や災害対策について知ることができた。</p>	<p>① 毎月同じ形態での研修となり、形骸化している面も感じられる。実習的な研修や外部講師を招いた研修など、新たな取り組みを、次年度は検討していきたい。</p> <p>② 3学期にはDIG訓練を行い、学校周辺地域の災害対策を学び、防災知識や意識の向上を図っていきたい。</p>	<p>① 生徒にとって大きな心の傷となるという意識を持ち、不祥事防止について、継続して取り組んでくれるようお願いしたい。</p> <p>② 災害時は、地域と学校の連携が特に重要になる。</p>	<p>① 毎月の研修により、職員は高い意識を持っている。継続して不祥事が起こらないように、風通しの良い職場づくりに努める。</p> <p>② DIG訓練や校外での防災学習を通して、自助共助の意義と方法、地域の防災活動や災害対策について学ぶことができた。</p>	<p>① 不祥事防止研修の取組について、新たな方法を考え実施することを検討する。</p> <p>② 訓練が形骸化しないように、今後も防災避難訓練の内容を工夫していく。</p>